

ロンゾークラブ 7



T・M良薬センター ニュースレター

ミャンマー / ベトナム / スリランカ



ニュースレター第7号

平成17年7月7日
T・M良薬センター事務局
Tel・Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
<http://www.tmrc.jp>

ネパール・釈迦族手作り人形「テムちゃん」

販売店

とらっとりゅ旬
イタリアンレストラン

〒379-0115 群馬県安中市宿 81

027-381-3117



いんしゃらあ 多国籍居酒屋

〒379-0111 群馬県安中市板鼻 81-6

027-382-3696



おうみや書店

〒376-0031 群馬県桐生市本町 4-77

0277-45-3270

松司軒 仏具店

〒409-2524 山梨県南巨摩郡
身延町身延 3659
Tel 0556-62-0210



特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局



〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社 1024
(Tel&Fax) 027-254-2325
(E-mail) office@tmrc.jp
(HP) www.tmrc.jp

ミャンマープロジェクト

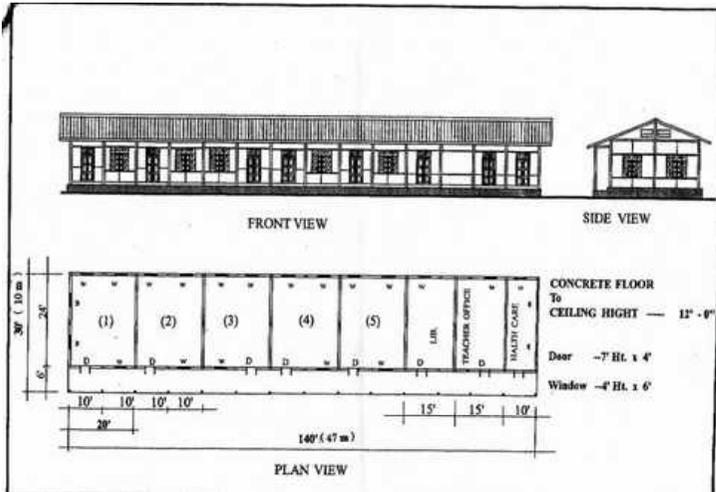
学校建設開始



2004年11月に行われた北部調査で、マンダレー近郊ザガインのハンセン病患者が隔離されている地域を視察し、その地域内での生活を強いられている子供達の為に学校を再建し寄贈する事業が決定されました。TMRCMミャンマープロジェクトチーム(田代副理事長、小川光星、豊川一男両会員)はアウンウインタンミャンマー事務所長と、2005年5月ザガインを再訪し、ミャンマー政府公認の荒れたコロニーの学校

もと学校建設が開始されました。同年8月完成の暁にはミャンマー国の本校として運営されます。

新しい学校の設計図



200人収容、6教室、図書館や事務室も付属されたものはミャンマーでは高校レベルの設備だそうです。現地業者と地域の人々が協力して建設中です。

すでに基礎工事は完了し、これから雨季

に入るため始めに屋根部分の作業を済ませ、そのあと床や壁の工事に入るようです。9月の開校式にはミャンマープロジェクトチームが出席する予定です。

整体指導 駐在開始

北部マンダレーで整体診療所を開設し予防医学的治療を行うと共に、豎琴寺内日本語学校で生徒に整体の指導を行い、職業訓練を展開する事業のため、小川光星会員は2005年6月から1年間のマンダレー駐在を開始しました。住居は同学校近所の賃貸住宅に決定し、整体治療用のベッドは現地で調達します。日中気温45度の灼熱マンダレーで小川駐在員は現在、同学校生徒らと親睦を深めながら、住居の諸工事が完了するのを待っている状態です。また、ザガイン学校建設の現場監督として時々建設現場を視察して頂きます。

整体診療所が開設される予定だった賃貸住宅の電気工事が進まないため、同日本語学校で治療活動が開始されます。小川氏は、診療のシステムとして治療費は設定せず、寄付箱を設置して、施術後各自寄付をする形で診療所の維持費と現地生活費を捻出する考えです。

整体指導は、朝8時から9時、9時から10時、夕方5時から6時、6時から7時と1日4教室開かれ、1教室ベッド10台による生徒20人ずつで行われる予定です。6月26日には整体教室の開校記念式が同学校にて参加者150人によって盛大に開催された模様です。

井戸掘り 最終調査



タエンデ村の小学校

藤岡南ロータリークラブ誕生5周年記念事業としてミャンマーの山村に井戸を寄贈する企画で、TMRCMと合同調査を行った豊川一男同クラブ前会長は北部の村を視察し、実施場所を決定しました。

タエンデ村はマンダレーから車で約1時間、人口1370人、330世帯の小さな村です。現在は、浅く、小さな井戸が1つあるだけで、水質が悪く、慢性的な水不足だそうです。調査の結果、約40万円で新たに、モーター付きの立派な井戸が寄贈できるということで、住民の要望に応じて同ロータリークラブは本年度の活動に井戸寄贈事業を組み込む見通しです。

また、このような村は冰山の一角で、各地で深い井戸が求められているようです。

ベトナムプロジェクト

越日文化交流センター



2004年夏、日本で募った寄付により仏跡寺（ハノイ近郊バクニン省）の敷地内で建設が開始されたベトナム日本文化交流センター（VNBC）は2005年9月11日（日）両国関係者、Canonベトナム社、トヨタベトナム社等招待し、盛大にオープニングセレモニーが開催される予定です。
なお、日本からのツアーは旅行会社「(株)大陸旅遊」の実施で9月8日から13日の日程が組まれています。参加者募集中です。

VNBCの様子

両国話し合いの結果、同センターでは最近需要の多いパソコン教室や日本語学校、クリニック等文化交流のため様々な機能を持たせることが決まっています。なお、これらの企画は全て無料でサービスされます。また、運営は日本側に任されているため2005年5月、TMRCベトナム駐在員として、脇田義成氏が同センターに就任しました。現在地域の子供達に空手と日本語を教えながら、ベトナム語を勉強しているとのこと。6月パソコン教室開校式の前に生徒を募集したところ村中から70人以上の希望者と家族が集まり、急遽パソコンを追加配備し、全5台でスタートすることになりました。

脇田義成駐在員連絡先： narukun2005@hotmail.co.jp

JLHC

学校法人としてベトナム国から認可を受けている「日本語教育人材開発センター（JLHC）」（ハノイ）の経営不振を支援するため、2004年5月から運営に参画し、新規蒔き直しを図るTMRCベトナムプロジェクトチーム（小野理事長、新井恵裕会員、ゲン・フォンベトナム事務所長）は、2005年4月、新たにJLHCの分校としてオープンしたJLHCハイフォン校を視察、第1回目の講義を「日本の礼儀作法」という題目で行い、同校生徒らはオリジナルの手本を研究しながら会釈と一礼の違いを学びました。

首都ハノイから東へ約100 Km に位置するハイフォンは昨今日本企業の進出が著しい工業都市で、各企業が現地採用社員に日本語の習得を求めています。多国籍企業のトヨタも新たにハイフォンに工場を出し、2005年初頭、ゲン・フォン所長はトヨタ合成から現地採用社員に対しての日本語教育の要請を受け、同年4月 JLHC ハイフォン校が開校したのです。同校は現在生徒14名一日4時間の授業が週6日行われています。

JLHCハノイ校には2005年6月から JLHC 職員として清水智子氏が駐在しています。

清水智子駐在員の報告

JLHC ハノイは今、18名の生徒さんが日本語を勉強しています。大学生と社会人の方達です。

私は、火曜日と木曜日の3時から5時までのTOYOTA合成のクラスを教えています。教えているというよりは、むしろベトナム語を教わっている感じです。

- こちらでは現在以下の4クラスがあります。
- ・月曜、水曜、金曜、週三回の初級クラス（18時～20時）
- ・火曜、木曜、土曜、週三回の中級クラス（18時半～20時半）
- ・月曜～土曜までの、週6日のトヨタ合成クラス（9時～12時 / 15時～17時）
- ・土曜の会話クラス（8時半～10時半）



今、ベトナムは大学が夏休みということもあって、少しずつ生徒が増えてきました。しかし、まだまだ、TMRCからの援助がないと経営が成り立たないのが現状です。ベトナムの4つのインターネットサイトの無料広告欄に、JLHCハノイの宣伝を載せています。今後とも生徒募集と運営拡大に尽力します。応援宜しくお願いします。

清水氏メールアドレス
shimizutomokopa@hotmail.com

JLHC ハノイ校前で生徒達と。

スリランカプロジェクト

スマトラ沖大地震及びインド洋津波の被害による被災地からの支援要請を受け結成された TMRC スリランカ訪問団（団長：清水海隆 TMRC 理事、団員：藤井淳至、浜島秀法、西片寛之、小野正遠各同会員、同行案内：ダンミッサラ同スリランカプロジェクトカウンターパートナー）は 2005年3月10日から16日の日程で南沿岸部被災地を視察し、各地で義援金や物資を支援しました。 **スリランカ南部/旅路**



- 10日深夜首都コロンボの北、カトナエイク空港に到着。
- 11日：中央部山岳地ウバ州バズラ地区、ダンミッサラ氏が運営する幼稚園を訪問。同氏の社会福祉事業（教育機関がない同地区で子供達の教育振興の為、高校卒業までの資格を得られる学校の建設を目指している）の支援で、学校建設費の一部を寄付し、起工式を執り行う。
- 12日：スリランカ東岸、パーナマ・ボディルッカヤマラを訪問。この村は、全住宅、1500家族が津波の被害を受け、死者9名。村唯一の学校が壊され、道具なども全て流失した。子供達の心を傷は計り知れないという住民の要望により、被災した2000人の子供達の精神的介護のための慈育センターの建設が決まり、義援金100万円が贈呈され、起工式を行う。2005年9月開所式。



13日：ハンバントタ・デイスマハラ市役所訪問。150棟が全壊、3000家族がキャンプ生活をしている。漁業を営む30%が生活する術を失っている。東のヤラ国立公園（日本人旅行者遭難の地）では職員が流され、全ホテルが被害を受けた。現在150以上の仮設住宅が設置されている。

漁村に打上げられた大型船

14日：ハンバントタからマータラ、ゴールと南海岸を通過して、西海岸の首都コロンボまで移動しながら被災地を視察。もともとリゾート地であった南西海岸沿いは、左手には、どこまでも広がる美しい海、その手前と右手には瓦礫の山と、テントと、国際NGOの旗が掲げられた仮設住宅が続いている。全てを失った被災者は崩れた家屋の前で呆然としていた。

15日：文化問題・国家遺産省訪問、大臣らと会見。

ヴィジタヘラス大臣の言葉
 「今回の津波の支援活動に来たことに大変感謝感激している。今回の津波の事件で世界は一つで、皆手を繋いでいることがわかった。文化的だけでなく社会的な活動をしている仏教僧が、今回の津波被災者の環境と傷付いた心を復興するため尽力してくれているが、そのような活動やダンミッサラ師の活動、仏教会とそれぞれ率先して社会活動していることに大変嬉しく思う。今回ダンミッサラ師に協力してくれている日本のTMRCが支援活動に訪れたことにより、今までの社会活動が広がり、大きく進展していくと実感が湧いてきている。」

ウパーリ新聞の取材を受ける。

深夜離陸

16日朝全員無事帰国。



引き続き被災地の復興支援に協力することを約束し、協議する清水団長

参列者大募集！
 「パーナマ慈育センター」
 開所式ツアー 9月26日出発